

地域と共に成長 する経営戦略の 探索へ

今後の地域と
企業活動の在り方と
課題を探る

経済経営学類 経営学博士

尹 卿 烈

YUN Kyeong-Lyeol (ユン・キョンヨル)

【専門分野】経営戦略論、国際経営論、競争戦略論、ビジネスイノベーション論



【プロフィール】韓国ソウル生まれ、高麗大学政経学部と立教大学大学院経済学研究科修了(経営学博士)。

経営戦略論と国際経営論が専門。近年は地域活性化と中小企業の経営活動、特に地域活性化に繋げる人材育成とイノベーション創出を目指した経営活動に関する研究を続けています。

地域の中小企業は、地域密着型の事業展開と雇用創出を通じて地域に活気を与えながら、地域の経済成長と生活向上を主導する極めて重要な役割を果たしますが、このような貢献度や役目に比べると、地域の中で安定的な事業基盤を構築したとは言い難いです。むしろ、人口減少、少子高齢化、地域経済の低迷などに加えて、人材や資金などの経営資源の確保、商品・サービスの充実や拡大に限界があるし、価格競争力やリスク対応力が弱いため多くの経営課題を抱えています。また、中小企業を苦しめる経営課題は複雑かつ多岐に渡っているので、その解決策の模索は簡単なことではありません。

経営戦略論の分野では、人・もの・金・情報という経営資源の強化に繋げる好循環の「ビジネスモデル」「経営革新」と「人材育成」に注目し、企業存立と活動の基盤になる経営資源の効率的な活用による「顧客価値の新提案と競争優位の強化」を強調しています。また、急変する市場環境の緻密な分析、自社独自の戦略の策定、有効な資源活用に関する適切な意思決定と実践策を強調しています。この経営戦略を専門とする私は、地域や企業の基盤を生かしながら、自己革新、自己変化を遂げる、新たなビジネスチャンスを握る、経営課題解決に貢献できる新たな経営戦略の構築に関する研究を続けています。



研究概要

少子高齢化・人口減少などに加えて、第4次産業革命の基盤技術を活用した製品・サービス・ビジネスモデルの登場により、地域企業を取り巻く環境は厳しくなって経営活動の全般において果敢な変化が求められています。大胆な変化を伴うリスクや負担が高いスタートではなく、既存の経営活動と経営基盤、外部との接し方・活用方法に対する見方ややり方など日常的な活動の変化から始まることを重視した



経営戦略、つまり地方の中小企業の実態と状況に合わせた経営戦略に関する研究と外部活動を行っています。

こんなことができます!

新しいビジネスモデル、人材育成プログラム、経営状況の分析及び新たな経営戦略の構築など

具体的な連携、事業化のイメージ

既存ビジネスの状況把握から始め、新たなビジネスモデル・商品やサービスの開発、人材育成プログラムの開発、経営戦略の構築に関連した経営活動の提言



経営支援

これまでの取組事例

- ・福島大学特別公開講座の企画運営
- ・福島大学地域ブランド研究所の研究員
- ・福島県「ふくしま6次化創業塾」「地域ブランドクリエイター養成講座」などでの講演
- ・独立行政法人家畜改良センター内部統制委員会委員

関連情報

- ・スマートシティ構築プロセス
- ・グローバルビジネスと戦略的提携
- ・中小企業における連携戦略の状況と成果に関する研究ほか

私たちの研究室自慢!

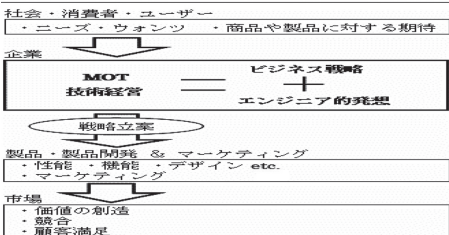
尹研究室には二つのモットがあります。まず、「ルールがないのがルール」があり、皆がルールを決めて主導的に活動しています。次は、「学びを通じて一生の友を得る」があり、皆が兄弟のように親密な関係であり、励みながら学んでいます。



こんなことができます!

経営方針や
マーケティング
戦略の構築、
商品企画など

MOTを主体とした製品開発戦略の構築：
工学的な視点に立ったビジネス
戦略モデルの立案



近年の市場において、顧客の好みや社会的要求の変化など、市場環境は急速に変化しており、技術や製品のライフサイクルは短期化しています。よって、これまでの製品主体のマネジメントでは市場への対応が困難となってきました。顧客や市場の要求へ対応するために、製品性能の向上や機能の追加、そして高い価値の提供が求められています。近年では、サービスを追加することによって、全体的価値を高める手法も検討されています。本研究室ではこれらの状態に対応するための新たな製品開発マネジメント手法を構築するために、どのような対応が考えられるのか、考察し具体的な対策を検討しています。

夢

社会に貢献できる持続可能な商品・サービスシステムの開発

共生システム理工学類

石岡 賢

ISHIOKA Masaru

教授 博士（経営学）

専門分野

MOT（技術経営）、マーケティング戦略、商品開発戦略

特許情報、著書、論文

「製品とサービスの融合に伴うマネジメント手法に関する考察」日本経営工学会 平成26年度秋季研究大会
「サービス・マネジメント視点による製品戦略の考察」日本経営工学会 平成27年度春季研究大会

想定するパートナー

企業、自治体、など

具体的な連携、事業化のイメージ

商品企画、サービス・マネジメント、マーケティング戦略

これまでの取組事例

企業や自治体における事業戦略や商品・サービス企画立案の相談やサポート。勉強会など。

教育
学習支援
健康
福祉
防災
都市計画
地域
産業振興

食・農

経営支援

ファイナンス

人材育成

法律

ライフ
サイエンス

情報通信

環境

ナノテク
材料

エネルギー

ものづくり
技術

社会基盤

フロンティア



こんなことができます!

情報システムの共同
開発と生産現場の
生産性向上の支援で
企業競争力の強化を
応援します



夢

グローバル競争に勝てる
中小企業の発展に貢献したい

共生システム理工学類

董彦文

DONG Yanwen

教授 博士

研究室 URL

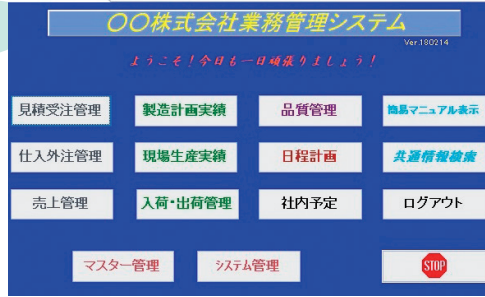
<http://www.mise.sss.fukushima-u.ac.jp>

専門分野

経営情報システム（基幹業務管理システムの開発）、生産管理（人工知能手法を用いた生産計画編成システム）

特許情報、著書、論文

「経営と信用リスクのデータ科学」共立出版、「事例ベース推論を用いた取引先信用評価システム」日本経営工学会論文誌



中小企業の基幹業務管理システムを10社以上開発して、情報システムの活用による管理業務の効率化に関するノウハウを多数積んでいる。また、人工知能または数理手法を用いた生産計画編成手法を多数提案した。さらに、データマイニング技術を活用し、実用的な企業経営分析と信用評価手法の開発に取り組んで、多数の論文・著書を発表した。最近、セル生産システムにおける作業者の作業効率改善方法に関して、文理融合的な研究を展開し、生産現場に应用できるノウハウと研究成果を多数取得している。

具体的な連携、事業化のイメージ

- (1) 中小企業の基幹業務管理システムの産学共同開発
- (2) セル生産システムにおける作業者の作業効率改善に関する共同研究
- (3) 情報システム開発に必要な高度な数理モデル・管理手法の共同開発。

これまでの取組事例

静岡県では紙管製造、金属製品加工、自動車部品製造と学生服卸販売など様々な業種の企業において産学共同で基幹業務管理システムを開発してきた。福島県においてもプラスチック製品加工企業の基幹業務管理システムおよび生産計画編成システムを産学共同で開発した。

教育
学習支援
健康
福祉
防災
都市計画
地域
産業振興

食・農

経営支援

ファイナンス

人材育成

法律

ライフ
サイエンス

情報通信

環境

ナノテク
材料

エネルギー

ものづくり
技術

社会基盤

フロンティア

